

流山市の地域環境と環境政策の課題

1. 自然環境

【現状】

流山市の地形は、北総台地（標高15～20m）、江戸川低地（5～6m）、谷底低地（台地上に樹枝状に生じた低地）、中小河川（利根運河・坂川・大堀川など）からできており、江戸川に沿って南北に長い形状をしています。市内の流域は利根川水系に属し、西の江戸川流域と東の手賀沼流域に分かれています。首都圏としては利根運河や市野谷の森等に代表される自然環境が比較的多く残っており、オオタカが生息するなど、緑と水の豊かさや生物多様性が地域の特徴であり魅力のひとつとなっています。

【課題】

今後も、運動公園周辺地区や市内での開発行為が進むことを視野に入れつつ、できる限り、自然環境の保全・再生・活用等を考慮した、バランスのとれたまちづくりが重要です。

⇒ **基本目標1**

2. 都市環境

【現状】

つくばエクスプレス（TX）開業（平成17年）などにより住宅都市として発展し、現在流山市の人口は21万人を超えています。また、新川耕地における流山インターチェンジ付近の物流施設の建設等や、令和5年11月に三郷流山橋有料道路が開通されたことで、街づくりの視点からも大きな変化を見せています。

市では、身近にある自然環境が都市生活にもたらず潤いやゆとりが大きな魅力で、流山市市総合計画で位置付けた「都心から一番近い森のまち」を都市イメージとして各施策を行っています。

【課題】

「都心から一番近い森のまち」形成のため、既存緑地の保全・活用と同時に、都市緑化が必要です。

⇒ **基本目標 1**

再生可能エネルギーの利用、省エネ性能の高い設備機器や建物の普及、公共交通機関の充実など、脱炭素型の都市・交通の形成が必要です。

⇒ **基本目標 2**

3. 環境負荷

【現状】

1人1日あたりのごみ排出量は、全体的には減少傾向です。

温室効果ガス排出量は、民生家庭・民生業務部門で増加傾向です。

環境基準は、光化学オキシダント、一部河川の水質汚濁、一部主要道路の騒音において未達成の懸念もあります。

また、2050年に二酸化炭素排出実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」を、令和5年に表明したことから、脱炭素化に向けたまちづくりにも取り組んでいきます。

【課題】

温室効果ガスについて、住宅やオフィス、店舗等の民生部門における排出量削減が重要です。

⇒ 基本目標2

令和9年度（2027年）を境に人口は緩やかに減少傾向に転ずると想定はされているものの、令和5年現在は人口増加が続いていることから、さらなる廃棄物削減の取り組みが重要です。

⇒ 基本目標3

環境基準について継続的な監視が必要です。

⇒ 基本目標4